

教育長 殿

宮城県泉高等学校  
校長 小金 聡

## 令和7年度学校評価報告書

## 1 本年度の重点目標

1 学習指導（確かな学力の育成）
① 基礎・基本の定着確認と、生徒の思考・判断・表現力を高める授業実践により、確かな学力の向上を図る。
② 教育系ICTプラットフォームを活用しながら、生徒の興味関心を広げ、自学・自習の主体的学習による家庭学習習慣の確立を図る。
2 生徒指導（豊かな人間関係と社会的に自立する力の育成）
① 基本的な生活習慣や規範意識の確立と実践により、事故や盗難、いじめ等のない安全安心な学校づくりに努める。
② 部活動、学校行事、生徒会活動、社会貢献活動等に積極的挑戦し、他を思いやる心、勤勉奉仕の精神を育み、共生社会に生きる資質を高める。
3 進路指導（主体的に進路を選択する態度の育成）
① 自己理解を深め、社会における自己の在り方・生き方を探究する「志教育」を推進することで、自己実現を諦めない強い意志を養う。
② 生徒の進路実現のために、3年間を見通した系統的・組織的な進路指導の推進に努めるとともに、全教員が最新の進路情報を取り入れる研修の機会を設ける。
4 保健衛生・安全教育・防災教育（命を守る力と共に支え合う心の育成）
① 心身の健康保持のため、積極的にSCやSSWと連携し、一人で抱え込まない体制を作る。
② 防災教育を通して日常の安全点検や避難訓練の充実を図り、地域社会と連携・対応できる学校を目指す。
5 働きがいのある学校づくり・職場環境づくり（風通しのよい職場環境づくりの推進）
① コミュニケーションを大切にし、報告・連絡・相談に基づく職員間の連携協力を努める。
② 校内・校外研修の充実により職員のスキルアップ・キャリアアップを目指すとともに、校務の円滑化・効率化を図り職員の多忙化解消に努める。

## 2 自己評価結果に対する学校関係者評価

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学習指導	① 生徒が主体的に学習に取り組む、学力向上につながる指導。	B	生徒が主体的に学習に取り組めるように、これまで生徒に一律に課していた週末課題については、個別最適な課題内容にするなど臨機応変な方策を考えていきたい。学習以外でのスマートフォンの使用に関しては、スマホの長時間利用が学習に与える影響なども生徒に周知し、家庭の協力も仰いでいく。	A	A
	② ICT環境や、生徒が安心して学習に取り組める環境の整備、生徒の学びの支援。	A	宮城県教育委員会の指導主事訪問（授業力向上支援事業）で指導主事から最新の授業づくりの情報を得る。各先生方が、県内各高等学校で行われる公開授業に積極的に参加し、「1人1台端末の活用」や「個別最適化」の先進的な授業から学んだことを校内で共有する。	A	A
学校関係者評価委員会における意見		<p>①について…教科指導は充実している。多くの教員が真摯に授業改善に取り組んできた成果である。・計画性や見直しをもって教育活動が進められていることに、保護者として大きな安心感を抱いている。</p> <p>②について…生成AIを学習にどのように活用するかについても検討が行われていることは、時宜を得た取り組みと高く評価できる。</p> <p>①②とも改善の方策は問題ないが、具体的にこれらを展開するとすると、相当な負担が教員にかかる。焦点を絞って、合理的・効果的な方策が見つかることを期待する。</p>			
生徒指導	① 挨拶や身だし等の基本的な生活習慣、他人を思いやる態度の育成。	B	遅刻をする生徒が1,954名(昨年同期1,757)で昨年同様に高い水準になっている。学校生活に悩みや不安を抱えている生徒が増えている。家庭やSCなどと連携を図りながら対応する。	A	A
	② 部活動・生徒会活動・学校行事等、生徒が積極的に学校生活を送れるような取り組み。	A	生徒・保護者ともに90%以上が学校行事や生徒会活動、部活動が活発・有意義に行われていることに肯定的に評価をしている。今後も生徒が主体的な活動ができるように環境を整えたい。	A	A
学校関係者評価委員会における意見		<p>①について…生徒指導の方針が明確である。基本的な生活習慣の確立及び規範意識の醸成について、先生方の日々の継続した指導によりおおかた良好な状況にある。・生活リズムが崩れている生徒が増えてきているように思う。自由と責任を教える環境も必要だ。・遅刻件数の増加や学校生活に不安を感じている生徒の存在については、保護者としても心に留めておきたい課題だ。・SNS等の利用における倫理的問題についても、指導に取り組んでいることがうかがえる。</p> <p>②について…部活動等は生徒が主体的に何をしたいのかを考えていただく機会作りができてきているようだ。</p>			

進路指導	① 生徒が将来の生き方や進路について考え、目標を持ち学習に取り組める指導・支援。	B	1・2年生は「夢ナビ」において、自分の興味のある分野についての資料を収集し、500以上の大学が参加するオンラインイベントで、大学の先生の講義を視聴している。その中で大学卒業後の将来について考える場面もある。個々の職業について話を聞く社会人講話も実施している。また、ベネッセの講師を招いての進路講演会も開催している。3年生については河合塾の講師を招いての講演会を行っている。視野を広げる指導を充実させ、目の前の大学合格のためだけでなく将来のために学習するのだというイメージをさらに持たせたい。	A	A
	② 入試制度の変化等の進路情報の提供と生徒・保護者・地域の期待に応える進路指導体制の整備。	A	大学の入試説明会には教員が手分けをして参加した。教員が知っておくべき情報は校内のネットワークで、生徒・保護者に知らせるべき情報はeメッセージ等で提示した。特に今年度は大学入学共通テストの出願方法が大きく変わったが、生徒と保護者には順を追って説明した。総合型・学校推薦型選抜受験者に対してきめ細かな個別指導を行った。生徒・教員双方にとってより効率的な指導形態を検討したい。	A	A
学校関係者評価委員会における意見		①について…進路講演会や模擬試験などの取組が充実しており、生徒が将来について主体的に考える機会が大切にされていると感じております。保護者としても大変心強く受け止めています。・先生自身の講話的な話もあってよい。外部の講師等が話をする方が、生徒に届く可能性はあるが先生自身の話にも心に届くと思う。・進路指導にとどまらず生き方についても考える機会を設けていることは、生徒の夢や志を高めることに繋がる。②について…制度の変化など大変な時代に、先生方のご苦労を感じる。正しい情報を生徒が理解できる形で伝えることも大変だと思いますが、今後よろしく願います。・今後は保護者に対する情報提供にさらに力を入れ、保護者からの理解・評価を高めることにつなげていくことが重要な課題と考える。			
保健・安全・防災	① 生徒の健康意識の高揚と教育相談の充実	B	季節や行事等に合わせ「保健だより」や「カウンセリングルームだより」の内容を工夫し、定期的に発行することで、生徒の健康意識を今まで以上に向上させたい。また今後も「こころの天気アンケート」を実施することで、心の不調を抱える生徒の早期発見や、必要に応じてSCにつなぐなど、教育相談の充実を努めたい。	A	A
	② 防災教育と避難訓練の充実	B	「保護者に対して学校から災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている」では、保護者の91.8%から肯定的な評価を得られた。「学校から防災訓練などをとおして、災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている」では、生徒の96.1%から肯定的な評価を得られた。今後も防災教育や避難訓練などの活動を通して、保護者・生徒の防災意識の向上に努めたい。	A	A
学校関係者評価委員会における意見		①について…eメッセージ等を通じたこまめな連絡は、保護者にとって大変ありがたい。・生徒に届く通信の発行をこれからもお願いします。「こころの天気アンケート」も必要な生徒には重要な調査方法です。真摯に向き合って記入している生徒をしっかりと受け止めていただければと思います。・いつでもどこでも相談できる体制づくりは必要である。多感な高校生との対話を重視し、さらに教育相談を充実させてほしい。②について…カードゲーム等を用いた実践的教育に取り組んでおり、効果を上げていると評価できる。・震災のことを風化させないよう、震災遺構の見学や語り部等の講話を聴かせるなど、命の大切さを生徒に考えさせる機会を設けてほしい。			

3 次年度の課題と改善方策

次年度の課題	改善方策
① 進路指導の内容や成果を、保護者が把握する仕組みの充実	本校生徒の主体的な進路選択力や自己理解力の育成につなげるため、進路通信等に取り組内容およびその目的を明示する。また、保護者に本校の進路指導方針を理解してもらおう。同時に、進路行事の様子をホームページに掲載し本校の取組状況について広く周知する。
③ 服装指導の基準や対応について、教職員間での認識の共有	生徒の社会性や自発性・自主性の育成につなげるために、制服の着こなし指導を単なる規則遵守指導にとどめず、自分たちで決めたルールを自分たちで守っていくような自己管理能力の育成を支援する。また、教員間の制服着こなしに関する共通理解を図る。
② 防災教育や避難訓練について、計画性や実効性の向上	・防災を自分事として捉え当事者意識の醸成を目指すため、語り部（震災）の卒業生を招き講演等を実施する。 ・課題解決力や他者と協働する態度の育成を図るため、1学年において防災学習教材「CROSSROAD」を活用した防災学習を実施する。 ・地域に根差した防災意識の向上を目指すため、地域消防と連携した訓練を行う。